

中学生の本

①著者名 ②発行所 ③本体価格 ④請求番号

1 アマゾンのふしぎな森へようこそ!



- ① 南 研子/著
- ② 合同出版
- ③ 1800 円
- ④ 29 ミ 023

ジャングルの中で生きる先住民たちは、電気もガスも水道もなく、お金が使えない、文字もない世界で、仲間や動物、精霊とともに生活しています。先住民たちと暮らす著者は、その生活の豊かさを伝えるとともに、現地の環境問題についても問いかけています。「自分には関係ないと思えない」現実がそこにあります。

2 国連で働く



- ① 植木 安弘/編著
- ② 岩波書店
- ③ 900 円
- ④ 32 ウ 023

平和構築、人道支援、軍縮、エネルギー、環境などグローバルな課題が山積するなかで、国連の果たすべき役割はますます大きくなっています。この本では、ユニセフや国連食糧農業機関、国連難民高等弁務官事務所など、国連や専門機関で様々な活動に携わってきた人々が国連の仕事について語ります。

3 友だちがしんどいなくなる本



- ① 石田 光規/著
- ② 講談社
- ③ 1400 円
- ④ 36 イ 024

友だちは大事だけれど、一緒にいると疲れてしまう。友だちができなくてさみしい。そんな悩みについて、著者は社会学の視点から考察し、新しい友だちの捉え方を教えてくれます。友だちにまつわる不安や悩みを抱えている人におすすめです。心が軽く、そして楽になる一冊です。

4 「よく見る人」と「よく聴く人」



- ① 広瀬 浩二郎/著
相良 啓子/著
- ② 岩波書店
- ③ 940 円
- ④ 36 ヒ 023

目の見えない研究者と耳が聞こえない研究者が、手話や触覚など様々な手法で世界とつながる自らの経験を語り合います。人はそれぞれ違って当たり前であり、互いに分かり合うために「工夫」が生まれます。これから生きる私たちに、共生のコミュニケーションの可能性を考えさせてくれる一冊です。

5 ワーキングドッグ



- ① 福澤 めぐみ/編著
- ② 緑書房
- ③ 3200 円
- ④ 64 フ 023

「ワーキングドッグ」とは、私たちの社会ではたらく犬たちのことで、警察犬・災害救助犬・障害者補助犬はもちろん、あまり知られていない医療施設で働く犬などについても紹介しています。ワーキングドッグの普及状況、選別や訓練の方法、現場での活動状況、引退後の生活について専門家が解説します。

6 学校に行かない僕の学校



- ① 尾崎 英子/作
- ② ポプラ社
- ③ 1600 円
- ④ 91 オ 024

ある出来事がきっかけで不登校になり，家からも離れたくなって，自分で見つけた全寮制のフリースクールに行くことに決めた主人公。同じ年の2人と仲を深めながら，やがて心に負った深い傷と向き合い，克服していく話です。心に重荷を背負ったとき，本当の自分の気持ちを語り合うことの大切さを感じられる本です。

7 12音のブックトーク



- ① こまつ あやこ/作
友風子/絵
- ② あかね書房
- ③ 1300 円
- ④ 91 コ 024

中1の初奈は，朝読の時間に，ある本を読んで，他校に通う柚菜と入れ替わってしまいます。本に書かれていたとおりになった謎を2人で追う物語です。司書の資格をもつ作者がブックトークのよさを伝えてくれます。押し付けがましいと言われた初奈が上手に本をすすめるまでの成長も楽しめる一冊です。

8 透明なルール



- ① 佐藤 いつ子/著
- ② KADOKAWA
- ③ 1500 円
- ④ 91 サ 024

「こうあるべき」，「みんなもそうだから……」など，自分で自分を縛るルールに苦しんでいるのかもしれない。人にどう思われているかを気にしすぎる中学生が，クラスメイトとの交流を通して強くなっていきます。教室の雰囲気やSNSの同調圧力に息苦しさを覚える全ての人に勇気をもたらす爽やかな物語です。

9 わたしは食べるのが下手



- ① 天川 栄人/作
- ② 小峰書店
- ③ 1600 円
- ④ 91 テ 024

“食”にまつわる悩みを抱える中学生の葵と咲子は，なかなか給食を食べられません。2人は給食改革に挑むこととなりますが……。

会食恐怖症や摂食障害，貧困問題，宗教問題など，様々な角度から“食”についての理解を深める一冊です。そして，2人の成長に感動する物語です。

10 彼女たちのバックヤード



- ① 森埜 こみち/作
- ② 講談社
- ③ 1400 円
- ④ 91 モ 024

父親がいない詩織，母と死別し新しい母親を迎える千秋，言葉を話さない弟がいる璃子の3人はクラスメイト。仲よしだったはずが，あるきっかけでぎくしゃくしてしまい……。それぞれの視点で描かれる事情がわかるにつれて，お互いを理解しようとする気持ちが大切だと教えてくれる物語です。

11 みかんファミリー



- ① 榎月 美智子/著
- ② 講談社
- ③ 1600 円
- ④ 91 ヤ 024

主人公の戸惑いをよそに、突然、なぜか他人である2つの家族、6人の女性だけの共同生活が始まります。登場する新しいファミリーの形は自然かつ新鮮であり、少しうらやましくも思えてきます。共同生活の理由や登場人物の人柄が明らかになるたびに、家族の温かさやありがたさを実感する、心にしみる一冊です。

12 希望のひとしずく

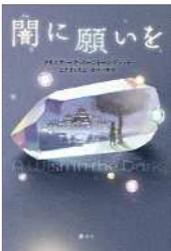


- ① キース・カラブレーゼ/著
代田 亜香子/訳
- ② 理論社
- ③ 1800 円
- ④ 93 カ 023

アメリカの小さな町にある、願いを叶えてくれるという不思議な井戸。1人の少年の祖父が最後に残した願いをきっかけに、3人の中学生たちが町中に奇跡の連鎖を起こします。

ささいなことでも、一人一人が誰かを思いやる気持ちで行動することの大切さを教えてくれます。

13 闇に願いを



- ① クリティーナ・スートンヴァット/著
こだま ともこ/訳
辻村 万実/訳
- ② 静山社
- ③ 1800 円
- ④ 93 ス 024

色とりどりの光がともる水上都市。刑務所で生まれた少年ポンは、9歳の時に自由を手に入れるために脱獄をします。一方、刑務所長の娘ノックは、ポンを罰するためにポンを追いかけて始め……。

『正しい』とはどういうことだろう」と考えさせられる物語です。

14 わたしの心のきらめき



- ① シャロン・M・ドレイパー/作
横山 和江/訳
- ② 鈴木出版
- ③ 1600 円
- ④ 93 ト 023

脳性麻痺のため言葉を発することができず、体も自由に動かすことのできないメロディ。機械の力を借りて、感情を表現し、知性を証明できるようになった主人公がサマーキャンプに参加する冒険物語です。常に明るく前向きで、ユーモアにあふれる魅力的な主人公に、誰もが元気と勇気をもらえる一冊です。

15 ぼくの心は炎に焼かれる



- ① ビヴァリー・ナイドゥー/作
野沢 佳織/訳
- ② 徳間書店
- ③ 1700 円
- ④ 93 ナ 024

1950年代、イギリスの植民地だったケニアで、兄弟のように育った白人のマシューと黒人のムゴ。独立運動を契機に、自らの土地と自由を奪還しようとする集団との板挟みになるムゴ。人種差別や憎しみの炎が2人の関係を変えてしまい……。戦争が残した支配の中で、信じることの大切さを考えさせられる一冊です。